

ご挨拶

この度、第 57 回東北臨床細胞学会学術集会を秋田県が担当し、2020 年 7 月 4 日に秋田市で開催させていただき運びとなりました。伝統ある本会を担当させていただき、大変光栄に存じます。この度、秋田県臨床細胞学会のホームページに <http://aktcytol.sakura.ne.jp/aktcytol/> 内に本学術集会のご案内のリンクを設定し、東北臨床細胞学会のホームページにも載せていただきました。

がんゲノム医療が本格的に始まり、基盤となる病理細胞診断の重要性が増しています。また、医療における AI の利活用がクローズアップされ、細胞診断への導入も模索されています。今後益々、細胞診の迅速性、簡便性、液状検体の取り扱いなどの長所を活かし、より精緻な細胞診断を進めていく必要性を実感しております。

今回は、【細胞診の総合力】をテーマに、会を進めさせていただきます。特別講演では、秋田大学腎泌尿器科学講座教授の羽瀧友則先生に、泌尿器科腫瘍の最新の治療やご研究のお話をいただく予定です。教育講演は、秋田病理組織細胞診研究センターの阿部一之助先生に子宮頸がん細胞診の精度管理、最新の AI 研究などのお話をお願いいたしました。また、シンポジウムでは「細胞診断のポイントとピットフォール」と題し、子宮内膜、胆汁・膵液、体腔液、リンパ節、乳腺、

尿の細胞診断について、各県の担当の先生方にご討議いただく予定です。また、従来通り、スライドカンファランス（婦人科、呼吸器、その他）、ランチョンセミナー（がんゲノム関連）を予定しております。開催にあたりまして、ご講演、ご協力をお願いをご快諾いただきました皆様方に、厚く御礼を申し上げます。

以上、半日程の短い時間ではありますが、諸臓器の細胞診断について、みなさまに大いに議論していただき、今後の日常診療にお役立ていただきたいと考えております。

本学術集会は、産婦人科医、外科医、病理医、細胞検査士らが一同に会し、意見交換を行う、東北では年 1 回の貴重な会です。できるだけ多くの会員のみなさまにご参集いただき、細胞診断の底力を感じ取っていただければ幸いに存じます。また、ささやかではございますが、学会終了後に懇談の場を設けさせていただきました。お忙しい折とは存じますが、こちらも併せてご出席いただき、会員同士のより一層の絆を深める場とさせていただければ、と願っております。どうぞよろしくお願ひ致します。

令和 元 年 12 月 吉日

第 57 回 東北臨床細胞学会学術集会 会長

南條 博